

編集者のことば

本号は、「多摩地区総合調査」研究報告の第1回特集である。

3年前に本センターが発足して以来、その共同研究の大テーマは、特殊な方法論を別として、「大都市居住問題の総合的研究」と「震災予防に関する研究方法論」との二であった。そのうち後者は、すでに以前から共同研究がなされていたので、その成果は、本誌の第一年度から着々と発表されている。第2, 5, 8の各号がその特集であったが、そのほかの諸号にも単行の報告として若干が発表されているとおりである。

前者は、センター発足とともに新たに組織されたものである。その初期の研究が、第3号に発表された古屋野正伍と渡辺良雄両教授の各論文、および第4号における石田頼房助教授主宰の「大都市地域の居住環境整備に関する基礎的研究」特集などの形で行なわれた結果、焦点を、ニュータウン建設途上の多摩地区にしぼる方針が決定され、計画は実施に移された。その最初の関連報告を集めたものが、本号の特集である。

この調査は、20余名の研究員の責任のもとに、有能な大学院学生さらには研修生なども時に応じて協力して行なう大調査であるから、その報告も、今後何回かにわかれて順次発表される予定である。その最初が、ここに公刊されることを喜ぶたい。この調査の成否は報告全体の発表をまたなければ云々できないであろうが、部分的・中間的な報告がつぎの段階のよりよい前進のために有効に役立てられることを、編集者は願ってやまない。

特集に関して本号に掲載したのは、数としては三編だが、いずれも実態調査を主とした研究報告であるので、自然、分量は多くなった。それらとやや性質の異なるものが一編、特集外として掲載されてある。水谷三公助教授のものである。これは、比較的小論文で、むしろ本格的な研究の途上でうまれた副産物的なものと言えるかもしれない。しかし、およそ発見というものは、むしろ何気ないようないわば小さいことにフト気づいたことから始まるものだとも言える。そのような小さい注意を蓄積してゆくのも、本誌のような研究誌の使命であると、われわれは考えている。そういう発表機関として本誌を広く利用して下さることを、関係者に願う次第である。